

診断. Paclitaxel, CBDCA による化学療法と同時に原発巣と縦隔に放射線療法を計 42Gy 施行し, 原発巣, 歯肉転移巣は縮小した. しかし多発性骨転移が出現し, 放射線療法施行中に原発巣と歯肉転移巣が増悪. Docetaxel による化学療法と原発巣に放射線療法を追加するも, 多発性皮膚転移, 胸水, 痛性リンパ管症が出現し, 10月12日に呼吸不全で死亡した. 歯肉転移を来した非喫煙若年女性の肺扁平上皮癌であり, 稀な症例と思われた.

### 16. 巨大副腎腫瘍をみとめた Large cell neuroendocrine carcinoma の 2 例

松本協立病院呼吸器科

江田清一郎, 折井恭子

信州大学第一内科

小泉知展, 久保惠嗣, 増淵 雄  
右副腎腫瘍を認めた LCNEC の 2 例を報告する. 症例 1; 51 歳男性. 平成 8 年 3 月, 右背部痛にて発症. 腹部超音波・CT 検査にて, 右副腎腫瘍あり. 縦隔にも腫瘍あり. 頸部リンパ節生検にて, LCNEC と診断. CAV-PVP 療法施行. 現在も存命中である. 症例 2; 65 歳男性. 平成 9 年 3 月, 右腹痛にて発症. 腹部超音波・CT 検査にて, 右副腎腫瘍あり. 縦隔リンパ節も腫大. 左鼠径リンパ節生検にて LCNEC と診断. CAV-PVP 療法にて PR を得た.

### 17. Large-cell neuroendocrine carcinoma の 1 例

大同病院呼吸器科

増井園子, 大鹿裕幸, 松久隆之  
椎尾啓輔, 有賀俊二, 吉川公章

大同病院外科

松山孝昭

症例は 53 歳, 男性. 会社の健診で右肺尖部の異常陰影を指摘された. 胸部 CT で右 S1 に約 2cm の結節影を認め, TBLB 施行. 擦過細胞診で adenocarcinoma と診断された. cT2N0M0 stage IB で右上葉切除術を行った. 術後標本の詳細な検討により, Travis らが提唱する Large-cell neuroendocrine carcinoma に相当する症例と考えられた. 若干の文献的考察を加え, 報告する.

### 18. 原発性肺癌の脈絡膜転移の 1 例

愛知県がんセンター呼吸器科

伊藤秀美, 前野 健, 吉田公秀  
樋田豊明, 杉浦孝彦

同 眼科

加藤京子

症例は 62 歳, 女性. 平成 10 年 10 月左変視にて他院眼科を受診. 眼底所見, MRI 所見より転移性脈絡膜腫瘍と診断された. 同内科での全身検索の結果, 肺腺癌と診断され, 翌年 1 月に治療目的で当センターへ入院した. 眼転移に対し放射線治療を施行, CDDP と VDS による全身化学療法を施行した. 原発巣は NC であったが眼症状は改善し現在外来通院中である. 今回我々は視覚障害が発見動機となった肺癌症例を経験したので報告する.

### 19. 脈絡膜転移による視力障害にて発症した肺癌の 1 例

浜松医科大学第二内科

松田宏幸, 横村光司, 朝田和博

中村祐太郎, 乾 直輝, 土屋智義

佐藤 潤, 戸館亮人, 須田隆文

千田金吾, 中村浩淑

同 眼科

町田拓幸

症例は 51 歳の女性. 平成 11 年 9 月初めより左眼の中心部に黒い点が見えるようになった. 近医の眼科を受診し, 網脈絡膜萎縮を疑われ当院の眼科を紹介された. 当院眼科にて転移性脈絡膜腫瘍と診断した. 入院後の胸部 CT にて左 S10 に結節影と縦隔リンパ節の腫大を認めた. 経気管支生検, 右鎖骨上窩リンパ節生検にて肺腺癌 (cT1N3M1 stage IV) と診断した. CDDP+CPT-11 による化学療法を開始した.

### 20. 小腸転移をきたした肺扁平上皮癌の 1 例

長野中央病院内科

市川幸次郎, 松澤伸洋

同 外科

彈塚孝雄, 成田 淳, 松林 巖  
健和会病院病理科

林 誠一, 東原 進

症例は 83 歳男性. 平成 9 年 10 月腹痛嘔吐にて近医受診. 腸閉塞と診断され当院紹介入院. 保存的に改善するも, 胸部 X 線にて右上肺野に結節影みられ, 気管支鏡施行し, 経気管支肺生検にて肺扁平上皮癌と診断された. 高齢, 無症状にて経過観察となった. 同年 12 月 12 日腸閉塞再発し, 再入院緊急手

術となる. 小腸に腫瘍を認め切除した. 病理組織にて腫瘍は扁平上皮癌であり, 肺扁平上皮癌小腸転移と診断された. 肺癌の小腸転移は稀であり, 若干の文献的考察を加え報告する.

### 21. びまん性肝転移による肝不全を呈した非小細胞肺癌の 2 症例

愛知県がんセンター胸部外科

宇佐美範恭, 立花慎吾, 波戸岡俊三

篠田雅幸, 陶山元一, 光富徹哉

同 呼吸器内科

杉浦孝彦

症例 1: 63 歳男性. 大細胞癌 (T3N0M0) で左上葉切除後半年後に, 全身倦怠感が出現し, 著明な肝腫大を指摘された. その後, 急激に肝不全が進行し死亡. 症例 2: 70 歳男性. 低分化腺癌 (T1N1M0) にて左上葉切除施行, 15 カ月後に肝機能障害が出現. その後急激な経過で腎不全を合併し術後 16 カ月で死亡. 2 例とも剖検において肝への高度なびまん性転移がみられ, それにより肝不全をきたしたと考えられた.

### 22. 脊髄転移により横断麻痺をきたした小細胞肺癌の 1 例

名古屋市立大学医学部第 2 内科

蟹江 浩, 秋田憲志, 河口治彦

新美 岳, 前田浩義, 山田由香

杉浦芳樹, 森 俊之, 吉野内猛夫

佐藤滋樹, 上田龍三

症例は 64 歳女性. 平成 10 年 6 月に発症した小細胞肺癌で cT3N2M1 stage IV ED と診断され CBDCA+VP16 及び CAV 療法施行し経過観察中であった.

平成 11 年 8 月 30 日, 下肢の筋力低下を自覚し再入院となった. 脊髄 X-P, 骨シンチにて脊椎等に異常を認めず, 脊髄 MRI にて, Th8-9 に相当する高位で, 髄腔内を占拠する腫瘍影を認めた. 文献的考察の結果, 悪性腫瘍の脊髄転移は 0.9% と稀で, 脊髄転移の原因臓器は肺癌が約半数と最も多かった.

### 23. 放射線治療後の肺全摘の 1 例 静岡県立総合病院呼吸器外科

春藤恭昌, 稲葉浩久

広瀬正秀, 太田伸一郎

同 呼吸器科

江藤 尚, 本多淳郎

症例は 72 歳, 男性. 右肺中間幹を閉塞する扁平上皮癌に対し, 前医にて放